

## 汎用機の COBOL リソースを再利用

ホストからの基幹システムのダウンサイジングで、計算機運用費を約 34%削減に成功

### 三菱電機情報ネットワーク株式会社

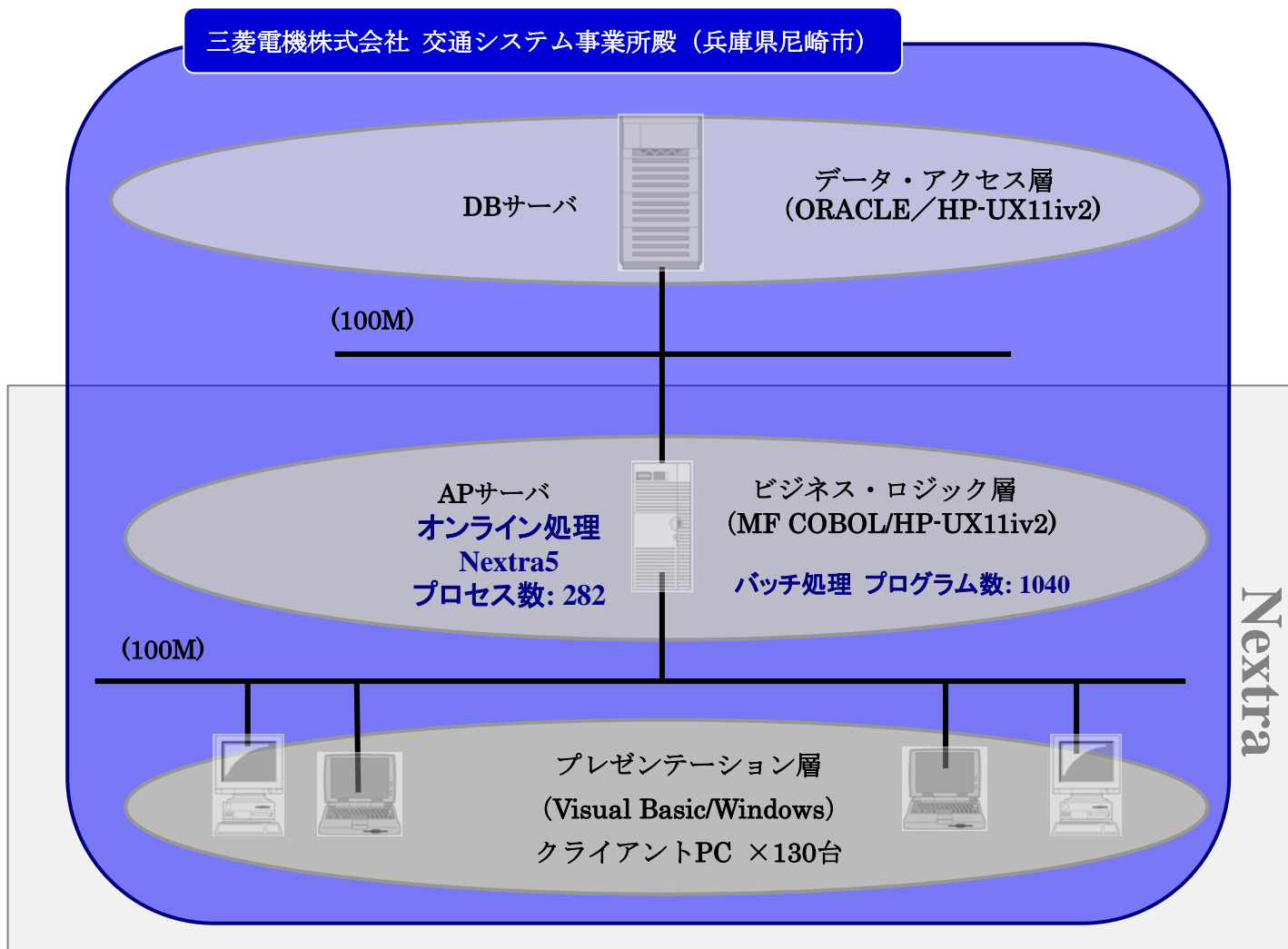
所在地◆東京都千代田区

事業内容◆ネットワーク及びアプリケーションの構築・運営・保守サービス、ネットワーク及び情報システムのアウトソーシングサービス、データセンター関連サービス

#### なぜ Nextra か？

プログラム構造を変えずにビジネスロジック部（ホストシステムの COBOL ロジック）をそのまま再利用できること。また、プログラマはクライアントと AP サーバ間の通信ロジックを意識することなく開発でき開発生産性の向上を期待できたので、Nextra を採用した。

#### システム構成図



## 「ポイント」

①Nextra の高耐障害性、②ダウンサイジングによる運用費大幅削減、③操作性・レスポンスの大幅な向上

## ユーザーコメント

三菱電機情報ネットワーク株式会社

製作所システム事業部 第一部・伊丹・赤穂システム課 村上 厚氏



約300本のCOBOL オンライントランザクション処理の移行。特に、画面制御とクライアント～サーバ間の通信手段が課題となっていたが、Nextra のRPC 自動生成機能と Microsoft 社の Visual Basic (Ver6) を組合せ課題は一気に解決した。Nextra の採用なしにはダウンサイジングに踏み切れなかったと思う。

Nextra を採用して良かった点は、①クライアントプログラムとサーバプログラムとをそれぞれ並行して開発できた事 ②プログラマがクライアントとアプリケーションサーバ間の通信ロジックを全く気にする必要が無く、生産性の向上が図ることができた事 この2点である。

開発中に苦労した点は、データアクセス部分の効率化である。基幹システムへのRDBの本格適用は初めてだったため、VSAM およびIMS-DB(SHISAM) 編成のアクセス部分を全てモジュール化し、キープレーク処理等のロジック改修を最小限に極力抑える事やデータアクセスの高速化には非常に苦労した。主要オンラインのレスポンスは3秒以内、バッチ処理は従来の1/2の経過時間で終了し、処理効率面でもダウンサイジングの効果は十分でている。

## システム概要

基幹業務アプリケーション アプリケーション名：ITOPS 作業管理システム

従来、製品系列単位に個別に構築していた生産管理システムを統合し、製造現場の効率向上を目的で開発されたシステムである（設計手法として初めてデータ中心設計を採用したシステム）。

## 導入経過

1986年 : ホストシステム版開発着手

1991年2月 : ホストシステム版本番稼動

1998年7月 : ダウンサイジング着手

2001年5月 : 本番導入

2007年1月 : Nextra5 for HP-UX11iv2 /Itanium2 へバージョンアップ

## 導入効果

ホストシステムから運用費用を約34%削減することに成功した。

ダウンサイジング化により、エンドユーザコンピューティングが容易になった。

## 今後の課題

現在のビジネスロジック（AP層）の変更無しに、SAP R/3 との連携。